

20	蒲郡	蒲郡市立三谷中学校	氏名 やまだ ひろと 山田 博登
分科会番号	8	分科会名	音楽教育

研究主題

豊かに感じ、表現する子

—響かせよう、西浦^{ふるさと}のハーモニー（器楽「ふるさと」）の実践を通して—

1 はじめに

本学級（男子12名・女子12名）の生徒たちは、自分の考えをも仲間に伝えることに恥ずかしさを感じている子が多い。これは一小一中という環境の中で生まれた人間関係が、中学3年に至る9年間で固まってしまい、慣れた環境で過ごす中で、変化することや新しい取り組みに対して消極的になってしまったからだと考える。音楽の授業でも同じように、コロナ禍で思い切り表現することができなかったことも重なり、音や声で音楽を表現し、演奏を聴き合うことを「恥ずかしい」と感じている生徒が多い。また表現の工夫をしたり、こだわったりする手段が分からないために、自分の表現を深めることなく、思考を止めてしまう生徒もいる。11月に行われる合唱コンクールで生き生きと表現できるようにするためのステップアップとして、自分たちがつくるハーモニーを味わい、意欲的に表現することができるような授業を行いたいと考えた。

そこで、自ら発声する必歌唱ではなく、比較的簡単に音を出すことのできるリコーダーを取り上げ、練習方法を工夫すれば、生徒は「できるかも」「表現することって楽しい」と感じ、意欲的に自分の思いを表現することができると考えた。また様々なグループ活動を通してクラスの仲間と音でかかわり、共に音楽を作り上げることの楽しさを感じさせることができれば、試行錯誤をしながら一つの曲を創り上げていく中で、生徒が主体的に音楽表現を工夫しながら学習に取り組めるのではないかと考えた。

器楽演奏の経験が少なく、音楽を表現することに消極的な生徒達に、楽曲との出合わせや演奏技術の習得法を工夫し、「吹いてみたい」「リコーダーならできそう」という意欲をもって活動する姿をめざす。苦手を感じている技術の習得をサポートし、自信をもって演奏できるようになった生徒たちに、仲間と共に音楽を創り上げる経験を通して、演奏することの楽しさや、できるようになった喜びを実感してほしい。そして、その後の合唱コンクールに向けての活動でも、表現することの楽しさや自分たちがつくる響きの美しさを感じながら、前向きな気持ちで取り組んでほしいと願う。

2 研究の方法

(1) めざす生徒像（豊かに感じ、表現する子とは）

I：演奏するために必要な奏法を習得し、意欲的に「ふるさと」の旋律を演奏することができる生徒。
II：仲間とつくる響きの美しさを味わいながら、曲にふさわしい吹き方で表現できる生徒。

(2) 研究の仮説

仮説 I：親しみやすい楽曲を精選し、出合わせ方の工夫や技術習得方法を工夫すれば、「やってみよう」という思いをもって意欲的に演奏するだろう。
仮説 II：グループ練習の方法を工夫し、段階に応じていくつかのかかわり合いの場を設定すれば、仲間と考えを伝え合いながら練習方法を模索し、楽曲のもつ美しい響きを味わうとともに、曲にふさわしい吹き方で表現することができるだろう。

(3) 仮説に対する手だて

<仮説 I に対する手だて>

Iーア 楽曲の精選と出合わせ方の工夫

- ・「ふるさと」は、文部省唱歌の中でも、幅広い年代に親しまれている曲の一つで、現在、小学校6年生の歌唱共通教材にも定められている。また、基本的な奏法であるポルタート奏法を習得しやすい楽曲でもある。器楽の教科書に載っている「二重奏」を、教科書に載っている「ふるさと（四重奏）」と組み合わせて、リコーダー三重奏に編曲して練習する。四分音符と八分音符を基本に構成された旋律で、比較的簡単に演奏することができ、「できた！」を積み上げることで、意欲をもって正しく演奏することができるだろう。
- ・本校教員（教師と校長、教頭）による模範演奏を聴く場を設定すれば、生演奏を鑑賞してリコーダーの響きや音が重なる美しさを味わい、「自分たちも演奏したい」と思いをもって活動するだろう。

Iーイ 演奏技術を習得させるための視覚的サポート

- ・一音ごとに運指イラストを付けた楽譜を作成し、運指を確認しながら練習できるようにする。また、模範動画を作成し、「演奏者の視点からリコーダーを見下ろすように撮った動画」「対面する仲間の視点から、演奏者のリコーダーを撮った動画」「親指の動きを確認するために、リコーダーの真裏から撮った動画」の3つの視点を視聴しながら練習する。そうすることで、運指練習に対する苦手意識を軽減し、意欲的に練習に取り組むことができるだろう。

<仮説 II に対する手だて>

II グループ練習の工夫

- ・段階ごとに目的を変えて取り組み、声部ごとのペア練習やパート練習、他声部混合のグループ練習を段階的に取り入れることで、音の響きや、音の重なりがつくる響きの美しさに触れることができるだろう。さらに、練習を重ねる中で、タブレットを用いて演奏を録画することで、それを客観的に振り返り、練習方法や演奏方法を工夫して練習することができるだろう。様々なグループ練習を通して、仲間とかかわりながら曲にふさわしい吹き方を模索し、表現することができるだろう。

(4) 題材構想

学習活動	教師支援
<p data-bbox="161 315 940 367">曲を知ろう・練習しよう①「ふるさと」ってどんな曲かな</p> <ul data-bbox="161 394 975 573" style="list-style-type: none"> ・小学生の時に歌ったことがあるよ。きれいなメロディだね。 ・運指は不安だけど、動画を見ながらなら吹けそうだな。 ・自分たちも演奏できるようになりたいな。 ・<u>リコーダーなら、自分たちでも綺麗にハモれるかもしれない。</u> <p data-bbox="209 591 956 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">リコーダーで僕たちの「ふるさと」を響かせよう！！</p> <p data-bbox="161 689 748 741">旋律を吹けるようになろう【パート練習】②</p> <ul data-bbox="161 775 876 909" style="list-style-type: none"> ・ペアになってお互いの指使いを確認しよう。 ・指使いについては、理解して吹けるようになってきた。 ・<u>次は別のパートと一緒に吹いてみたい。</u> <p data-bbox="161 936 952 987">グループでハーモニーをつくってみよう【グループ練習】③</p> <p data-bbox="161 1014 368 1048">〈グループ練習〉</p> <ul data-bbox="161 1066 959 1144" style="list-style-type: none"> ・同じパートの子が少なくなったから、しっかり演奏しなきゃ。 ・いまいち、ハモっている感じがしないね。どうしてだろう。 <p data-bbox="161 1160 397 1193">〈聴き合いをして〉</p> <ul data-bbox="161 1211 975 1379" style="list-style-type: none"> ・Aグループはふるさとのメロディが聞こえづらいよ。 ・Bグループの演奏は、ばらばらな感じがするな。 ・<u>バランスをそろえるために、録音して聴いてみたらどうかな。</u> <p data-bbox="185 1350 608 1384" style="text-decoration: underline;">もう一度グループで練習したい！</p> <p data-bbox="161 1413 767 1464">みんなでもっと美しいハーモニーにしよう④</p> <ul data-bbox="161 1491 1007 1816" style="list-style-type: none"> ・バランスを改善したいので、録音して確認します。 ・美しいハーモニーで吹くために、私たちはリズムをそろえたいです。 ・アルトが遅れるね。ソプラノとアルトで吹いてみよう。 ・メロディを聴かせたいから、私たちはもう少し優しく吹いてみようよ。 ・<u>美しい響きになってきたぞ。皆で合わせてみよう。</u> <p data-bbox="161 1843 552 1895">ギャラリーで合奏しよう⑤</p> <ul data-bbox="161 1921 932 2000" style="list-style-type: none"> ・美しいハーモニーになったね。みんなに聴いてもらおうよ。 ・みんなでハモるって楽しいね。合唱でもハモりたい！！ 	<ul data-bbox="1038 394 1437 2000" style="list-style-type: none"> ・生徒に「吹いてみたい」という思いをもたせるために、教員による、ふるさとの模範演奏をする。 ・運指を確認しながら練習ができるようにするために、複数の視点の模範動画・運指付きの楽譜を配布する。 ・合唱コンクールでの全体合唱へとつなげるために、混声三部合唱と同じパートに分ける。 ・仲間と聴き合いながら演奏をよりよくできるようにするために、各パートを分けて、2つのグループを構成する。 ・自分達の演奏を客観的に聴くために、タブレット端末を活用する。 ・自分の考えをもって話し合いに参加できるように、仲間の演奏を聴いて見つけた問題点とその解決方法をまとめるワークシートを用意する。 ・仲間と関わりあいながら練習方法を工夫し、自分たちの演奏に生かすことができるように、グループ練習の時間を設定する。 ・達成感を感じ、合唱コンクールへと思いをつなぐために、発表の場を設定する。

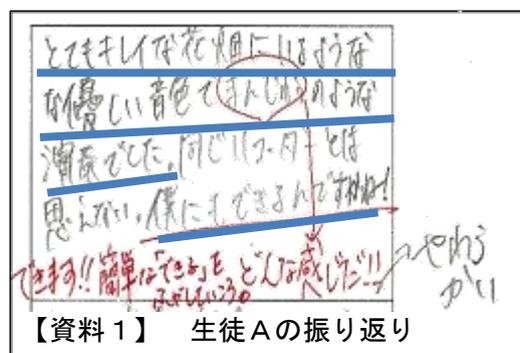
3 研究の実際と考察

(1) 抽出生徒Aのとらえと願い

生徒Aは明るく、クラスのムードメーカーである。感覚的に分かることや楽しいと感じられることは、仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができるが、楽譜を読んだり、リコーダーの運指を正しく覚えて演奏したりすることは苦手で、「俺はだめだから…」と気持ちを閉ざしてしまう。スモールステップで「できる」を積み重ねていけば、苦手意識をもっていてもスムーズに技術習得ができ、友達とかかわり合いながら、「ふるさと」にふさわしい吹き方で表現をすることができるだろう。

(1) 教師による模範演奏を聴いて意欲を高める生徒A (手立てIーア)

授業の導入時には、校長と教頭を招き、教師らによる生演奏を行った。生徒Aは「とてもキレイな花畑にいるような優しい音色でまんじゅうのような演奏でした」「(まんじゅうとは)やわらかい」と振り返っている。この記述から、生徒Aが教師による「ふるさと」の演奏を聴いて、音色の美しさに気づいていることが分かる。また、「僕にもできるんですかねー！」という言葉からは苦手意識は持ちながらもやってみたいという気持ちを抱いていることが分かる。【資料1】



【資料1】 生徒Aの振り返り

(2) オリジナル楽譜や模範動画を使って意欲的に練習に取り組む生徒A (手立てIーイ)

短時間で効率よく曲の練習ができるようにするために、音符ごとに運指イラストを付けたオリジナル楽譜や3方向から映した模範映像を用意した。【資料2】生徒たちはそれぞれ、自分の練習段階に合わせて楽譜と動画をつかいながら個人練習を行った。生徒Aは、運指付きの楽譜を見ながら一音一音確認しながら練習をしていた。くり返し練習する中で、同じ音がくり返されていたり、フレーズが順次進行になっていたりすることに気づく姿が見られた。また、生徒Aは、模範映像を見ながら「先生が目の前にいるみたいだから、向かい合う感じの動画がいちばん見やすいな。」と言いながら練習に取り組んでいた。この言葉からは、3方向の模範映像を用意したことで、生徒Aが自分の一番練習のしやすいアングルの動画を選択し、練習に取り組もうとしていることが分かる。オリジナル楽譜と模範映像による練習を繰り返した生徒Aは、「動画はもう大丈夫だから一緒に吹こう」と同じパートの生徒を誘っていた。このことから、オリジナル楽譜を用いることで演奏しながら運指を確認したり、曲の特徴を捉えたりすることができた。また、3方向からの模範映像を用いることで自分の一番練習のしやすい方法で技術を取得し、意欲的に練習に取り組もうとする姿につながったことが分かる。



【資料2】 運指イラスト付きの楽譜と3方向から映した模範映像

(4) 同声グループの仲間とかかわり合いながら練習方法を工夫する生徒A（手立てⅡ）

それぞれが自信をもって演奏できるようになってきたところで、同声グループで練習をする場を設定した。同パートの仲間と音合わせや表現合わせをしやすいように、合唱コンクールと同じソプラノ、アルト、テノールの3つのパートに分けた。

生徒Aの属するテノールチームは楽曲を通す練習ばかりをしていたが、「一回ごとに反省と、目標を見つけるために吹くことにしよう」と声をかけると、「3段目がうまく行かないからここだけ繰り返しながら練習しよう」「出だしが揃わないからここだけ合わせる練習をしよう」「この部分だけペアで確認する時間をとろう」と生徒同士のかかわり合いが増え、練習方法を工夫するようになった。生徒Aは「〇〇たちと一緒にリズムが取りやすい。俺吹けるようになってきたかも!」と発言

していた。個人練習から同声パートグループのユニゾン練習をし、気づいたことを伝え合う中で、友達の音と自分の音のずれに気づき練習方法を工夫することができた。【資料3】

T: 一回ごとに反省と、目標を見つけるために吹くようにしよう。

(曲を一回通す)

C: 3段目が上手くいかないからここだけ繰り返しながら練習しよう。

C: 出だしもそろわないからそこだけ合わせる練習も必要だと思う。

C: じゃあ、この部分だけペアで確認する時間をとろう。

(くり返し練習をする)

生徒A: 〇〇たちと一緒にだとリズムが取りやすい。俺、吹けるようになってきたかも!

【資料3】 対話記録

(5) 混成グループの仲間とかかわり合いながら曲の美しさを追求する生徒A（手立てⅡ）

次に、同声パートの仲間と練習方法を工夫し始めた生徒たちを2つの混声グループに分けて練習を行う時間を設定した。生徒Aは曲を通せる状態になっていたが、アルトパート担当でグループリーダーの生徒Cから「指の動きが遅い。何とかして。」と言われたことをきっかけに言い合いをしてしまった。生徒Cは他声の仲間たちとどうしたら理想のアンサンブルになるのかわからずに戸惑い、生徒Aは自分と違うパートの旋律に惑わされて演奏がおぼつかなくなってしまう。生徒Aは振り返りに「でも生徒Cはテノールも完ぺきに吹けるので何も言えねー。ちゃんとまねして教わることにしました。」と記述していた。【資料4】

11-9の生徒Cに指の動きが遅いと言われた。でも生徒Cはテノールも完ぺきに吹けるので何も言えねー。ちゃんとまねして教わることにしました。

上手な子はなぜ上手に聴こえるんだろう、秘密をさぐるつもりで聴いてみよう

上手な子はなぜ上手に聴こえるんだろう、秘密をさぐるつもりで聴いてみよう

【資料4】 生徒Aの振り返りより

この振り返りから生徒Aは、仲間の演奏の良さを認め、自分もCのように上手に演奏をしたいという意欲をもっていることが読み取れる。そこで、「上手な子はなぜ上手に聴こえるんだろう、秘密をさぐるつもりで聴いてみよう」と朱書きで投げかけた。生徒Aは次の時間、生徒Cにテノールの旋律を吹いてもらい、「俺のと比べてすごく滑らかだ…」とつぶやいた。仲間の演奏からポルタート奏法の表現の良さに気づき、また生徒Cのアドバイスを受け入れてスムーズに指を動かせるよう繰り返し練習をする姿が見られた。この姿がグループ全体に広がり、パートごとに聴き合ってアドバイスをし合いながら音楽をつくりあげることができた。

また、彼らが曲にあった表現を追求できるよう、「録画して、客観的に自分たちの演奏を見てみよう。」と投げかけた。すると見直すことによって、「音がこんなにずれているとへこむなあ」「なんだか吹いている姿が暗いよねえ」という感想が出てきた。演奏しては感想を言い合い、課題を見つけて次の演奏に生かすというサイクルが生まれ、活発にかかわり合いながらグループ練習をすることができた。

(6) 他グループと聴き合いをする中で、曲にふさわしい表現について考える生徒A（手立てⅡ）

タブレットを活用して客観的に自分たちの演奏を聴きながら練習をするうちに「自分たちの演奏だけでなく、他グループの演奏も聴いてみたい」という意見が出てきた。聴き合いをすると、それぞれのグループに、違った良いところや課題があることが明確に分かった。聴き手から感想を発表してもらおうと、「フレーズが滑らかできれい・テンポが安定せず走ってしまう」、「みんなが丁寧に演奏しているからテンポが安定している・どのパートも大きな音で吹いているから美しい感じがしない」というような意見が出てきた。

生徒の「美しい」という言葉を取り上げ、全員に「美しい演奏とはどういうことだろう？」と問いかけ、話し合う時間をとった。生徒Aのグループは、美しく演奏するための目標を「強弱と息のタイミングをそろえて演奏する」と設定し、改めてグループ練習を行った【資料7】。

再度聴き合いをすると、生徒Aは他グループの演奏を聴き、「リズムに乗って身体を動かして演奏をされていてすごいと思いました。」と仲間の表現方法に目を向けた感想を述べた。グループ練習を通じて、生徒A自身の表現への意識が高まったことが分かった。



【資料6】 グループごとに聴き合いをする

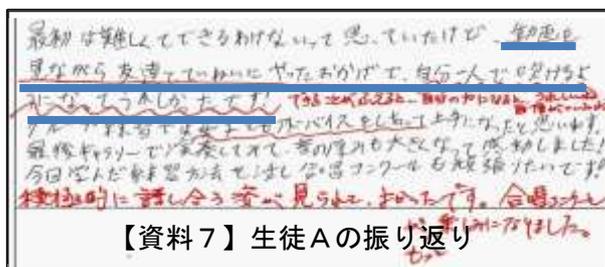
資料7：授業記録

- 生徒D：演奏を始めるタイミングをそろえよう、吹奏楽部みたいに私が楽器を振るね。
- 生徒C：Dの合図が見えるように、アーチみたいにならぼうよ。みんな見える？
- 生徒A：強弱ってどう意識するの？
- 生徒C：私たちでやるから見てて。…わかった？
- 生徒A：うますぎ。…どう？
- 生徒C：いいけど音が途切れるんだよね…。
- 生徒A：息まだ余裕があるから続くかも。

(7) 自信をもって楽しんで演奏する生徒A（手立てⅡ）

2チームに分かれて練習を行ったことで、違うことを意識してきたため、2つの演奏ができあがった。そこで最後に、お互いのチームの演奏を聴いて、学習したことを伝え合い、クラス全員でリコーダー合奏を行った。

クラス全員の演奏を終えた生徒Aの振り返りには「動画を見ながら友達といてねいにやったおかげで自分一人で吹けるようになってうれしかったです！」と記述されていた。



【資料7】 生徒Aの振り返り

【資料7】 この言葉からは、段階をふんで練習するごとに上達し、自信をつけて、楽しんで演奏することができたことがわかる。

4 研究の成果と課題

- ・運指イラスト付きの楽譜の作成や演奏動画の配信など、視覚的な支援ができる教材を活用することで、「できそう!」「もっとやりたい」という意欲や「できた!」という達成感を感じることができた。
- ・生徒たちが話し合いながら、曲にあった演奏を工夫する時間を多くとったことで、仲間と考えを伝え合いながら練習方法を模索し、曲にふさわしい吹き方で表現する姿につながった。
- ・本題材では、技術習得をめざした手だてを中心に構想したが、そこに、作者の意図や自分たちの思いを重ねて演奏できる手だてを考え、「豊かに感じる」心を育む題材を実践していきたい。